甲斐の金山から　平成21年1月16日　第47号

博物館だより

国指定史跡・甲斐金山遺跡／湯之奥・中山金山

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館報

2009年も元気印でスタート!!

多くの皆様に支えられて12年目。もうすぐ22万人目のお客様をお迎えいたします。
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

ニューイヤーコンサート in KINZAN

新年最初の博物館事業は心地よい管弦楽の調べから始まりました。山梨県内で活動している南アルプス桃源交響楽団の奏でるハーモニーがエントランスに響き、観客の皆さんはこの美しい音色に酔いしれました。

金管アンサンブル、木管アンサンブル、弦楽アンサンブルにオーケストラ演奏と演奏時間は1時間でしたが、大変内容の濃いものとなりました。

活かそう身延町の観光資源

甲斐黄金村・湯之奥金山博物館 館長　谷　口　一　夫

「黄金の国ジパングと甲斐金山遺跡展」
当館企画展と連携（ハブ）・
4月～6月に県立博物館で開催

昨年7月12日～9月21日、東京・国立科学博物館で「黄金の国ジパングとエル・ドラード展」が開催され、開催前日のオープニングセレモニーには当館から私と小松学芸員、それに砂金を出展協力した友の会メンバーが出席しました。

歴史的に日本は列島全体に金銀産地を有し、正に「黄金の国ジパング」の名に相応しく、それを改めて実感させてくれた展示会でした。

また、外国からもエル・ドラード展の関係でバララット博物館ティムサリバン館長とヴィクトリア黄金博物館デーモット・ヘンリーコレクションマネージャーの両氏がオープニングセレモニーに出展関係者として来日しましたが、会場にて歓談する中で湯之奥金山博物館を見学したいという希望があり、同月16日に、金山博物館へ来館、館内を案内することができました。

両氏は映像シアター、ジオラマ展示、資料展示室、体験室を熱心に視察、「物が置いてあるだけでなく、しっかり歴史が展示してあると絶賛、自分たちの博物館もこうでありたい、大変勉強になった」と感想を述べ館を後にしました。

過去にもスイス、イタリア、フランスなどからの政府要人10名ほどが、砂防関係で立山視察後、富士川の歴史的治水遺跡見学に訪れた際、金山博物館へ立ち寄ってくれましたが、特にジオラマ展示にブラボーの声があがったほどでした。黄金という「もの」でなく歴史が伝わったと思います。

外国人の目から見ると「黄金の国ジパング」というイメージが先行しているのか、結構関心度が高い感じでした。ドイツ日本大使館のドイツ人一行(25名ほど)も砂金体験で大変盛り上がったことがあります。

西暦749年に百済の王敬福によって聖武天皇に大量の金が献上された宮城県涌谷の黄金山産金遺跡(国史跡)には、天平ロマン館があり韓国からの観光客多数が毎年来ています。

さて、この黄金の国ジパング展は巡回展となり、2月21日～4月19日には新潟・県立万代島美術館で「黄金の国ジパングと佐渡金山遺跡展」と題し、4月25日～6月15日には山梨県立博物館で「黄金の国ジパングと甲斐金山遺跡展」としての開催が決まっています。

当館でも県立博物館と連携して展示に参加しますが、より深く甲斐金山を学びたい方の為に金山博物館でも企画展を開催、県立博物館と両館連携(ハブ)でこのテーマに取り組みます。

日本の国指定の金銀山遺跡は4箇所
中山金山はその一つ・
館内ツアー（解説）にも対応

中山金山については何回も『館だより』などで書いていますが、日本列島にある金・銀山のうち国指定史跡となっている4箇所のうちの一つになります。

宮城県・黄金山産金遺跡、山梨県・甲斐金山遺跡(黒川金山・中山金山)、島根県・石見銀山遺跡、新潟県・佐渡金山遺跡が国指定史跡です。

この中山金山が私たちの身延町にあり、そのガイダンス館である湯之奥金山博物館が下部温泉郷入り口にありますが、これは身延町の観光の宝です。博物館有料入館者も間もなく22万人目を迎えます。

さらに身延には、魅力がいっぱい

さらに観光立町で生きる身延町には、素晴らしい観光資源があります。周囲を見渡せば川(富士川)あり、湖(本栖湖)あり、山あり、森あり、美しい自然景観があります。富士川の景観も朝・夕など刻々と変わる変化を楽しめます。

750年の歴史をもつ身延山久遠寺や1000年以上の湯治場の歴史をもつ下部温泉郷など全国に知られる観光ポイントです。

またＪＲ身延線や富士川右岸の西河内路(国道52)、左岸の県道(東河内路)、富士五湖につ

ながる国道300(身延いろは坂)などのインフラも整い、そうした舞台の中に県内に2箇所しかない城下町である下山城下町(もう一つは甲府城下町)や、前出の湯之奥中山金山の他に内山、茅小屋などの戦国期の貴重な金山遺跡初め、常葉、栃代、川尻の金山遺跡と大炊平、大城の砂金採掘跡などの遺跡があります。

この歴史的な環境の中で金山衆という技術者集団が産金活動を行い、早川入りの森林資源から下山の大工衆が育ち、舟運は夜子沢の石工衆を生んでいます。宮木へ渡る飯富橋の下には、富士川のカーブに合わせた岩盤の切込みが見られます。これは石工を育てた現場の一つと考えられます。

戦国期に武田氏や穴山氏の文書発給数が増えますが、その背景には手漉き和紙の生産が後押ししたのと、花押に変わり印判(朱印)が多用されたことにもよるとみられます。西嶋の手漉き和紙にみられる紙漉き職能集団輩出の歴史がこの辺に重なってくるかと思われます。

さらに山女、椎茸、曙大豆、湯葉など安全な食材が身延にはみられ、観光資源と重ねると魅力ある身延町が浮かび上がってきます。これからは、その素材をどう組み合わせてどう使うか、住む人の意識と知恵かと思います。

発想の転換も必要です

よく身延の観光というと1,000万人と言われる富士五湖を訪れるお客さんをどう身延山や下部温泉へ下ろすかの一方向の議論があります。人の流れを下へ向けるのはなかなか大変、では下から上げたらどうなるか…です。

幸い、今夏には富士山静岡空港が開港(予定)、また近年に第2東名(清水I.Cから富沢まで10キロ)の開通を控え、さらに10年後には中部横断自動車道の開通(波高島I.C)が計画されています。

京浜・東海地方とまさに身延は南の玄関口になります。静岡市の経済人口は350万人とも言われます。前述の観光資源を駆使した身延観光を初日にあて、2日目は、その延長線上で富士山観光につなげていく。五湖巡りの最初のポイントは誰もが知るお札の撮影ポイント(本栖湖)からが分かり易いでしょう。

何かこれまでにない観光商品(土産品含め)が生まれそうです。また下部温泉はレトロの温泉郷がいいですね。この観光プランづくり、町民あげて取組みませんか。

お知らせ

特別展「巡回展・山梨の遺跡展2009」

日　　時：平成21年1月15日(木)～2月15日(日)
場　　所：湯之奥金山博物館多目的ホール
対象遺跡：甲府城跡、鰍沢河岸跡、玉川金山遺跡、中世寺院分布調査、景徳院ほか

◦山梨県埋蔵文化財センターのご協力のもと、調査が進められた山梨県内各遺跡・遺構を資料とともに写真パネルで紹介しています。観覧無料です。是非ご覧ください。

2009年 谷口館長による館内ツアー開始!!

これまでも随時行ってきましたが、改めて谷口一夫館長による館内ツアー案内を開催いたします。ツアーがある日は、エントランス入口にその日のツアー開催と、開始時刻をお知らせする案内看板を出しています。館内ツアーを希望される方は、受付時にお申し出ください。所要時間は40分前後です。

館内ツアーは参加人員一人からでも実施いたします。また、途中から参加される方も、時間の都合で途中で抜けなくてはならないという方も、どなた様もお気軽にご参加出来るフリースタイルです。続きは次回のお楽しみにしてください。観覧中の質疑応答も自由です。是非、あなたの知的好奇心を満たしにきてください。

活　動　報　告　①

平成20年度公開講座『湯之奥金山とその周辺～河内地方の原風景を追って②』 10月～

紫辻先生（10月11日）

萩原先生（11月22日）

秋山先生（12月13日）

「湯之奥金山とその周辺～河内地方の原風景を追って②」と題してスタートした今年度公開講座。昨年10月から開催し、すでに３回を数えております。

皮切りとなった10月の初回講義は、特別講座として、大河ドラマ『風林火山』の時代考証をされた紫辻俊六先生に「武田信玄の虚像と実像～甲陽軍鑑の評価～」というテーマで、翌11月は、帝京大学山梨文化財研究所所長・萩原三雄先生に「甲斐金山と鉱山技術研究の新展開」と題し現在の鉱山研究の進展と現況について、翌12月は、元山梨県史編さん室長の秋山敬先生に「甲斐国・河内領穴山氏の誕生」と題してお話していただきました。

毎回多くの皆様にご聴講いただいておりますが、各回とも講義の後は活発な質疑応答が飛び交い、聴講者の皆さんがかなり興味を持って聞いてくださっていることを実感いたします。

公開講座も残すところあと２回となりました。今後も午後２時から午後４時まで（質疑応答含む）、博物館多目的ホールで開催いたします。聴講無料です。

多くの皆様のご聴講をお待ちしております。

通算回	期　日	演　　題	講　師　名
第59回	平成21年 １月31日(土)	甲斐国・河内の職能集団 ～甲府城築造からみた土木技術とその担い手～	山梨県教育委員会 宮　里　　学
第60回	２月28日(土)	甲斐国・河内の初期金山を巡る新資料	山梨郷土研究会 数　野　雅　彦

※気象条件や講師の都合により、日程が変更されることもございますので、その都度博物館へお問い合わせのうえ、ご来館ください。また、講師の都合により演題が変更されることもございます。

各地で「金山」を活用した活性化運動始まる／埼玉・股の沢金山 静岡・麓金山

遺跡の保存活用が叫ばれる中、各地で地元にある金山遺跡を地域活性化の手段として取り上げようという動きが活発化しています。現在、その運動を広めているのは「埼玉県股の沢金山」「富士宮市麓金山」です。

股の沢金山については、埼玉県秩父市と関連団体より、全国的にも金山調査が最も進んでいる山梨県の専門館として、当館宛に金山調査への協力依頼を頂き、各方面の先生方のご協力を頂きながら、現在調査に参加しています。

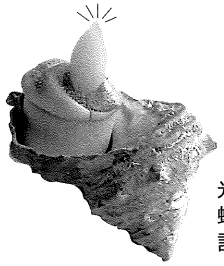
秩父市では地域再生元気事業の一環として股の沢金山を学術的に調査研究していくことを目的とし、まず第１回目の踏査として、去る10月25日、現地案内の方々と遺跡現場へ赴きました。この調査には山梨県立博物館や黒川金山遺跡を有する甲州市なども参加しており、山梨の関係団体が共同調査するような形で進んでいます。

また、静岡県麓では湯之奥中山金山の尾根の反対にある同時代金山・富士（麓）金山を活用しようという活動が数年前から始まっており、去る11月15日に東京農大麓キャンパスにおいて、金山遺跡を活用した地域活性化について金山座学の講師として小松学芸員が出向きました。この日は20人ほどの学生や地元有志の皆さんが参加し、どのように地元の歴史遺産を活用するかを検討した話し合いとフィールドワークの時間が設けられ、さまざまな意見が飛び交いました。

各地の鉱山遺跡を活用した運動によって、これまで未知だった歴史がまた一つ明らかになっていくことは、鉱山研究上にも大変楽しみなことです。こうした調査状況に進展がありましたら、今後この『館だより』でも随時紹介して参ります。これらの事業等に湯之奥金山博物館が関係するのも知名度が上がってきた結果です。

活動報告②　中山金山遺跡見学会　　9月21日(日)

雨の中、講師の久間先生の説明を聞く参加者



光量は、当時使われていた螺灯の現物と同じように設計されています

サザエの貝殻を使った「螺灯」。江戸時代石見銀山でも坑道内で手元を照らし出す道具として使用されました。
その螺灯を復元したインテリア作成に参加者は結構夢中です。

通算18回目を数える遺跡見学会、今年度は9月に湯之奥中山金山、10月に島根石見銀山の見学会を開催いたしました。今回の見学地選定の趣旨は、国指定史跡・中山金山を今後もっともっと各方面で活用していく必要性を感じる中、湯之奥中山金山の歴史を改めて認識し、世界遺産に登録された石見銀山との対比研究を行なうことが極めて重要と考えたことからです。

さて、第1回目の中山金山見学会は、台風13号の影響で1日延期した翌21日(日)に実施しました。講師に石見銀山遺跡の間歩探査をロボットにより実践された島根県松江工業高等専門学校の久間英樹准教授をお招きしました。

参加者が県内外から集まっていただく中、台風の影響で急遽通行止め箇所があったりと出発から多少のハプニングもありましたが、無事登山道に到着。登山を開始しました。

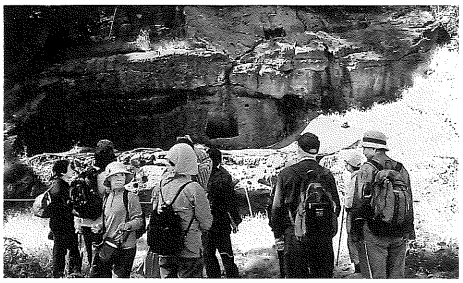
毛無山は山梨百名山の一つでもあり、その中腹にある中山金山への道は決して楽なものではありません。当館での事業の場合、中山金山遺跡までの道中、大きく3箇所の休憩ポイントを設けますが、体が慣れてくるまでの第1ポイントまでが一番大変です。案の定、参加者の皆さんはここで「この山は大変だ」と口々にしていました。しかしここをクリアすると後は比較的楽に登っていくことができます。その後も休憩を挟みながら無事に遺跡現場に到着し遺跡内を見学しました。午後からさらに詳細な坑道見学やロボット探査の様子を確認する予定を組んでいましたが、前日の雨雲の影響もあり、次第に大粒の雨が降り始めたため、参加者の安全を最優先し、激しくなってくる雨を恨めしく思いながら予定を早めての下山としました。

そのような状況から参加者の皆さんには残念ながらその様子をご覧いただくことが出来ませんでしたが、先生と学生の二人は6月の現地下見に引き続き、遺跡の坑道内のロボット探査をされ、その成果を下山後参加者にもご説明くださいました。その後この日の楽しみの一つでもある「螺灯作り」の指導をしていただき、参加者はハンダゴテを使いながら器用に作っていきました。それぞれが作成した螺灯は久間先生よりプレゼントされ、参加者たちは喜んで帰途につきました。

今回の見学会は湯之奥金山解明の新たな一歩と考えています。新情報は諸先生方のご協力をいただきながら、今後、発表して参りますので楽しみにしていてください。

活動報告③

島根石見銀山



「謎の岩盤遺構」の見学に臨む

大久保間歩の見学に際して、ガイドの会
勝部さんの説明を聞く参加者

限定ツアーで大久保間歩内に入坑した一行。ヘルメット長靴着用で坑内を見学します。

石見銀山を訪れる際、見学・観光の
窓口となる「世界遺産センター」

石見銀山は、戦国時代後期から江戸時代前期にかけた日本最大の銀山で、甲斐全体の金山の繁栄をも導いたと言われる金山奉行・大久保長安が手がけたということもあり、甲斐金山との深いつながりもあります。また、2007年に世界遺産登録を受けた鉱山ということで、日本中の鉱山史研究者、鉱山関係者からの注目を集めている鉱山遺跡であり、日本のみならず世界中から多くの観光客が訪れています。

10月の16日、見学会一行は一路石見銀山を目指しました。直線距離にすると下部温泉郷から片道約850㎞。バス移動でしたが、乗車中の不快感もなく参加者全員が石見までの道のりを「想像以上にあっという間だった」と実感したようです。

さて、現地では３日間の講師を務めてくださる九州大学名誉教授の井澤英二先生と合流し、初日の夜、石見銀山と見学ポイントについて簡単なレクチャーをいただき、翌日の見学日を迎えました。見所は石見銀山最大規模の大久保間歩、そして通常は見ることはかなわない仙の山山頂の露天掘り跡、そして、石見銀山の代表的象徴の一つでもある大森の町並みと石見銀山資料館。最後に世界遺産センターというコースです。２日目の見学日には、石見銀山の間歩探査を手がけられ中山金山見学会にも講師としてお越しいただいた久間英樹先生も合流していただきました。

石見銀山は全体を見ようと思ったら３、４日はかかると言われている程広い場所が世界遺産となっています。先生方も中世から近代まで操業時期がある石見銀山のどこに見学のポイントを置くかということを、考えてくださいましたが、限られた時間の中であるならば、湯之奥と同時代の中世部分を見学するのが最も良いということ、また金山博物館事業だからこそという部分を組み入れた結果、今回のルートとなりました。

すっきりとした快晴に恵まれ、最高の見学日和。

現在、大久保間歩は期間限定で予約により一般特別公開されており、ガイドの会の方が案内してくださいます。世界遺産センターで、この日のガイドを務めてくださる「石見銀山ガイドの会」の勝部副会長さんにご挨拶し、いよいよ「大久保間歩」見学です。

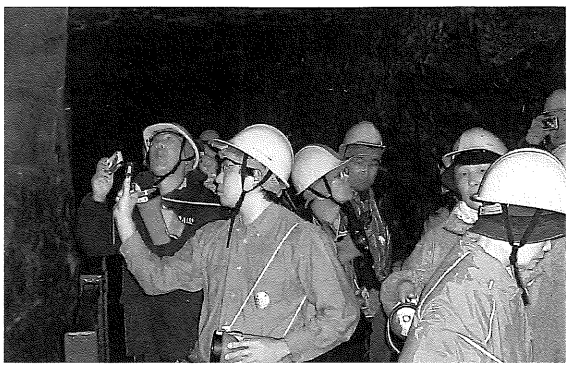
朝９時の集合からお昼まで、たっぷり午前中を使っての見学。センターからシャトルバスで移動し、そこからハイキング程度の山登りです。

広い遺跡全体に点在する各遺構の中、ガイドを聞きながら歩みを進めましたが、途中途中で井澤先生・久間先生お二人の専門的な側面から説明をいただいていたので、参加の皆さんは普段聞けないお話に興味津々でした。

遺　跡　見　学　会

10月16日(木)～18日(土)

大久保間歩内はひんやりと涼しく、入坑の際には、ヘルメットと長靴、懐中電灯を装備しての見学でしたが壁面に残るノミの跡から時代性が図れることなどを理解しました。近代の手が入っているとはいえ、これだけ大規模に採掘したとは改めて驚きです。計算上では一日掘って石見の丁銀一枚分＝160ｇ程の銀が採掘されていたと言われています。坑道内で当時の光量と同じというインテリア螺灯を付けてみましたが、当時の職人の技術力や忍耐力に改めて驚かされました。



午後はセンターからジャンボタクシーに分乗し、通常は公開されていない仙の山山頂付近の一号間歩と露天掘りの見学です。石見銀山の間歩は久間先生のロボット調査が入っており、坑道の形状測量データなどが採られていますので、坑口の形から採掘された時代などもよく検証されています。久間先生からは、時代とともに変化していく坑道の形について詳細なお話をいただきました。

また、井澤先生がご説明くださった中で参加者の興味を特にひいたのは、鉱石の生成に関わる話や鉱床の出来方についてなど。地質や鉱物の専門の先生といつでもお話出来る機会はなかなかありませんので、そうしたジャンルのかねてからの疑問点についていろいろ尋ねており、また先生も親身にお答えくださっていました。自分だけでは見落としそうなところも随所随所で先生方がご説明くださったので遺構の様子が非常によく理解できました。

山頂の見学を終え、石見銀山資料館の仲野義文館長のご案内で石見の歴史について触れました。旧代官所跡を利用しているこの資料館はとても趣のあるものです。そして資料館から続く大森の町並みを見学・散策しました。

そして最後の見学地「石見銀山世界遺産センター」へ。フルオープン前でご多忙の中、センター

石見銀山資料館

職員の皆さんと、大田市教育委員会の方々にご歓待いただき、親切丁寧なご説明をしてくださいました。オープン前ですから、他の観覧者は誰もいない中での贅沢な観覧でした。石見銀山のガイダンス館ということで「まだまだこれから開館と同時に充実させていくべき部分はありますが、皆さんにご満足いただける展示内容に仕上げていきたいと思います」とご担当の方の説明を伺いながらその熱意も伝わってきました。時間外にも関わらず１時間半ほどご説明をいただき、大変充実した見学をさせていただきました。またセンター職員の皆さんが日暮れの中、バスが見えなくなるまで手を振ってくださっていました。

翌日は出雲大社の参拝後、一路山梨へ。全員が無事に見学会を終えることが出来、また、皆さんの感想からも楽しんで頂けたことも分かり、大変嬉しく感じました。講師の先生方、先方の関係の方々、参加者の皆さまのご協力のおかげで晴天に恵まれた見学会は無事に終了しました。

こうした世界的にも脚光を浴びている代表的な鉱山遺跡を見学会の場所として視野に入れているのは、今後の『博物館の在り方』を求めていくためにも必要なことです。世界遺産登録に向けて運動展開している佐渡金山、現在操業している菱刈金山、新居浜・別子銅山なども、今後の現地見学会開催を視野に入れている場所です。今後もこうした観点から県内外を問わず見学地選定を行い、見学会を通じて多くの方々に歴史的価値を学習していただくと同時に、事業が終わったらそれで終わりではなく、地元に帰ってからも歴史遺産の活用方策を検討できるような、価値と意味のある事業を展開し、さまざまな側面からその成果を活かしていきたいと思います。

館からお知らせ

親子映画観賞会

◎平成21年２月11日(水) 午後１時～　　３月25日(水) 午後１時～

多くの方にお楽しみいただいている映画会の日程は次のとおりです。上映作品の詳細は管内小中学校に配布するチラシ、そして博物館ＨＰなどで周知しております。親子に限らずどなた様でもご覧になれますので、お気軽にお出かけください。

その他、博物館の開館時間について

◎４月までの開館時間：午前９時～午後５時まで（受付は閉館30分前まで。休館日・毎週水曜日）

◎２月11日(水)は、祝日にあたるため開館しております。また、午後１時からは映画観賞会も開催いたします。なお翌日の12日(木)は振替休館とさせていただきますので、開館日をお間違えないようご来館ください。

◎３月19日(木)～４月７日(火)まで桜観期無休開館

上記期間は桜の開花時期に合わせて無休開館期間とさせていただきます。お花見に合わせて是非お立ち寄りください。※参考：昨年の桜開花ピークは３月29日でした。

博物館日誌（平成20年９月～12月）

９月

- ９日(月) 山梨県庁へ世界遺産パネル借用
- ９日(火) 特別展・世界遺産パネル展（～16日迄）
- ９日(木) 館だより46号配付
- 11日(火) 敬老の日、神奈川県住宅公園イベント・出張砂金採り
- 16日(火) 写真パネル返却、下部温泉郷魅力づくり協議会ワーキンググループ会議
- 19日(金) 身延観光センター募集ツアー研修会
- 21日(日) 中山金山遺跡見学会
- 23日(火) 秋分の日
- 25日(木) 静岡市役所イベント下見
- 28日(日) 博物館設計者 中村弘道氏来館

10月

- ２日(木) 冬時間
- ３日(金) 北杜市・泉小学校県内巡り
- ５日(日) 身延町長選挙投票所（於多目的ホール）
- ７日(火) 櫛形北小学校県内巡り
- ８日(水) 休館日・館内メンテナンス
- ９日(木) 湯田小学校５年生県内巡り
- 10日(金) 『るるぶ』撮影
- 11日(土) 第56回公開講座・紫辻俊六氏
- 12日(日) 万灯行列
- 13日(月) 身延山体育の日
- 16日(木) 石見銀山遺跡見学会（～18日）
- 17日(金) 豊岡小学校町内巡り、下部温泉郷魅力づくり協議会ワーキンググループ会議
- 22日(水) 休館日・館内機器メンテナンス
- 25日(土) 股の沢金山（秩父市）現地調査
- 28日(火) 大鎌田保育園遠足

11月

- １日(土) 親子映画観賞会「ドラえもん・のび太と緑の巨人伝」
- ５日(水) 山梨県下４教育事務所地域教育担当者研修会、下部中
- 13日(火) 市川中学校県内巡り
- 14日(金) 栽培菊鉢（～29日まで）
- 15日(木) 下部温泉郷魅力づくり協議会ワーキンググループ会議
- 16日(日) 『旅のさんぽ』取材・撮影、わんぱく丸点検
- 18日(火) 東京農大麓分校講座
- 20日(木) 浜横川鉱山（長野）踏査
- 21日(金) こどもぎ勧学院研修会
- 22日(土) 第57回県民の日・無料開館
- 23日(日) 勤労感謝の日
- 24日(月) 依田良平氏菊展示
- 25日(火) 休館日・館内清掃
- 26日(水) 久那土中町内巡り、下部温泉郷魅力づくり協議会ワーキンググループ会議
- 27日(木) 館内清掃

12月

- ２日(火) みのぶ学講座、クリスマスカード配布開始
- ４日(木) イルミネーション開始（～２月末日まで）
- ６日(土) 親子映画観賞会「西の魔女が死んだ」
- ８日(月) 資料燻蒸処理（～13日）
- ９日(火) みのぶ学講座
- 11日(木) 下部温泉郷魅力づくり協議会ワーキンググループ会議
- 13日(土) 第58回公開講座・秋山　敬氏
- 15日(月) 芦安中県内巡り
- 28日(日) 年末年始休館（～１月１日）
- 31日(水) 第２回日曜コンサート

１月

- ２日(金) 年始仕事始め
- 11日(日)

編集後記

新年の幕開けから早くも１月が過ぎようとしています。慌ただしさが一段落としたところで改めて、館の新年の抱負を考えてみました。そう言えば昨年の流行語の中に「CHANGE があったなあ…などと思いつつ、思い浮かぶ言葉は「たくさんの笑顔が集まる博物館に、地域に愛される博物館づくり」。毎年同じ？と思われるかもしれませんが、やはりお客様に対して一番大事な事。そんなわけで当館の場合、「いつ来ても楽しんで喜んでいただけるという基本を変えず、しかし様々な事業や活動の内容は深めながら変化を持たせる」という意味合いを込めた「CHANGE を2009年の目標としました。

本年も皆様のご来館とご協力を賜りたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

博物館だより　第47号　平成21年１月16日

〒409-2947　山梨県南巨摩郡身延町上之平1787番地先　甲斐黄金村・湯之奥金山博物館　電話 0556-36-0015　FAX 0556-36-0003

博物館HPアドレス http://www.town.minobu.lg.jp/local_minobu/kinzan/index.html　博物館Eメールアドレス yunoking@town.minobu.lg.jp